

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 水 康德 編集責任者：桶村清子 34期広報委員会 印刷所：東京印刷株式会社

4月レクリエーション例会

今年のレクリエーション例会は、会員家族を迎え、広大な自然のある大山ガーデンプレイスにて、スポーツ・ゲーム・バーベキュー・料理対決と盛りだくさんの内容となった。

まず初めに、緑に囲まれた多目的グラウンドでいつもと違う雰囲気の中で綱領唱和が行われると、会長が「本日は、年に一度の家族揃ってのレクリエーション例会ですので、しっかりと家族のみなさんも楽しんで帰って下さい。」と挨拶をされた。それから新入会員の西村義史会員にバッジ授与に続き、松田総務委員長から今例会の趣

対抗での料理対決で、環境問題委員会は蕎麦海苔巻きを、総務委員会は蕎麦のスイートポテト、広報委員会は蕎麦野菜サラダ、政治行政委員会は蕎麦ハンバーガー、Neo・ラヴィ委員会とビジネス委員会は蕎麦春巻きを、エリアデザイン委員会は蕎麦餃子に挑戦！各委員会ともアイデア満載で見た目にもとても美味しいそうに出来上がっていた。審査は、水会長と中田直前と次年度増井会長に託された。試食終了



後、午前中に行われたキックベースボール大会の表彰式と罰ゲームが行われた。優勝したのは、山根副会長率いる環境問題委員会とエリアデザイン委員会の合同チームでした。あと特別賞に大人げないプレーをした松江会員と茅野真一委員長にMOPが贈られた。最下位の水会長率いる総務委員会と他委員会助人の合同チームには、くさやの罰ゲームが待っていた。そのくさやの匂いはそばに座ることが出来ないほどの臭さで、最初に食べた水会長に感想を聞いて見ると「言葉に表現できない」と一言だけ述べられた。なぜかくさやの匂いに会場のテンションが異常に上がり、どこからともなく罰ゲームに関係のない会員のコールが始まり沢山の会員がくさやの被害者になった。続いては蕎麦料理対決の表彰式と罰ゲームが行われた。中田直前会長賞にはエリアデザイン委員会が、水会長賞には総務委員会が増井次年度会長賞にはNeo・ラヴィ委員会が選ばれた。今回の料理作りには奥さん方の沢山の協力があり、例会の趣旨でもある会員家族の交流にはもってこい

の企画だったと思える。表彰式の時の奥さんの一言だが、茅野康洋委員長の奥さんによる「いつもうちのヤンチャ坊主がお世話になってます。」の一言はとても受けた。最下位になったビジネス委員会の罰ゲームは、一般の人から可哀想と言われるほどの恥ずかしい格好をして神輿に乗っての引き回しだった。会場の盛り上がりそのままに続いて、最低出席率委員会の罰ゲームは、おかしなおつつあと題して土岐副会長と政治行政委員会の茅野委員長、朝原福委員長が上半身裸の上にガムテープでお菓子を貼り付け、それを子供達が用意ドンで剥ぎ取るというものだった。子供達は大いに喜び、お菓子を剥がされる方は実に痛そうだった。盛りだくさんの企画もいよいよ大詰め。最後のイベントはチリも積もれば山となるゲームで、全員でじゃんけん大会をした。水会長の掛声のもとに始まったじゃんけん大会は、会員一人200円ずつを集めて、初めは1万4千円から始まったが敗者復活での再参加料で最終的には、2万円近くにもなった。決勝戦は中田直前の息子さんと岩垣委員長との一騎打ちだったが、午前中のキックベースボールの流れで、勝ったら大人げないぞの雰囲気の中で負けてホットしていた岩垣委員長の顔が印象的だった。最後に中村専務理事から「来年も今年以上に楽しいイベントをしていきたいと思っておりますので、来年もぜひご家族揃って遊びに来て下さい、お待ちしております。」と締めくくられ、大自然と触れ合いながら子供達も奥さん方も一緒になって大いに楽しんだ例会は、無事に終了した。

(記事：谷口)



旨の説明が終わると、晴天の中でのキックベースボール大会が始まった。4チームに別れてのトーナメント方式だったが、今大会を面白く盛り上げたのは、子供と女性に優しい特別ルールだった。日頃の運動不足を解消しようと気合を入れてグラウンドに立ったものの、いざ子供が打席に立ってフライをあげられると、攻撃側ギャラリーから「とるな、落とせ、大人げないぞ」などの罵声が飛んで来て、守備側も捕っていないのかどうなのか分からない場面が沢山あった。中にはフライをとられて大泣きする子供もいて、困りはててなぐさめに行く会員の姿も見られた。

バーベキュー会場に移動して、汗をしっかりとかいた後の乾杯。普段みられないお父さん、旦那さんの顔で家族まじえての楽しいバーベキューが始まると、続いては蕎麦を使っ



委員会訪問

政治行政委員会の巻



に至っております。

そんな中で今回は、現在農業を営まれている方(彦名在住でたばこ農家の河田様、夜見町在住で白ねぎ農家の矢倉様)をお招きし、農家の抱えている現状、また市街化となった場合の問題点を聞くことができる貴重な機会とすることができました。以下、印象に残った項目をご紹介します。

①後継者不足の中、お二人とも学校卒業後一旦県内外の企業に

政治行政4月委員会は4月8日に米子ニューアーバンホテルにて開催致しました。当委員会は「米子・境港都市計画区域 線引きの見直し」をテーマとし活動を重ねて参りましたが、線引きについて考えれば考えるほど「農業」という問題は避けては通れないという結論

- 就職された後、実家の農業を継承。どちらの方も家族単位で農業を営まれている。
- ②農業経験者同士であれば共同体として経営することも可能。農業機械等を共同購入できる。
- ③近くに大型物件ができた場合、深夜までの明るさや車の廃棄ガスよりは、日中の日当たりが悪くなると致命傷になる。
- ④開発に伴い他の場所を代替地としてもらっても、その所どころで土地には特性があり、たばこ・白ねぎ栽培に適しているとは限らないため、考えられない。
- ⑤未経験者が農業に進出する場合、初期投資が莫大でやり繰りできない。

私ども政治行政委員会は今までに米子市都市計画課長様(保守派)、以前イズミ進出問題で揺れた上福原土地区画整理組合の元会長様(推進派)のお話をお聞きして参りました。そして今回、農家の方のご意見を聞くことができたのですが、線引きの必要性、不必要性を判断する上で非常に参考になったことは言うまでもありません。

今期の委員会活動も残り僅かとなって参りましたが、最後まで走り抜けたと思います。

O B 訪問



「撮るのは慣れるけど、撮られるのは慣れないね。」
と若干ハニカミのOBでした(謄本)

角田茂樹OB

(22期ご卒会)

中央会に入りたいきさつは？

30歳の時に、先輩に声をかけていただいて入会しました。当時、他の会員の方と年齢も離れていたため、自分の青さに気がつかされたものです。

中央会で特に印象に残っている事は何ですか？

県の研修でベトナムに行ったときの事です。泊まっていたホテルにレーガン大統領が訪れたのは本当に驚きました。また東部の方がスリに遭って、全部持って行かれたり、本当に色んな事がありました。

もう一つは、私が県会長をさせていただいていた時、西部でしかできないことをと、当時県出向だった岩田慎介OBの発案で境港のまぐろで解体ショーをしたことかな。当時は珍しくて、東部の方も中部の方も喜んでくれて、大いに酒が進んで、飲み過ぎたある新入会員は奥さんが突入し、本当に賑やかな愉快的な席になりました。

近年の変革、チャレンジは？

最近写真もデジタル化が進んで、今までのやり方とは違う方向を模索しないといけない時代になってきています。そんな中、プロだからできる様々なサービスを始めています。

いざという時、スナップを引き伸ばすのではなく、来るべきお迎えの時のために、自分の人生を振り返り、印象的な笑顔の遺影を残される方は増えています。七五三や成人式は定番の行事ですが、最近は家族写真・入学・卒業の節目の時に撮りに来られる方も多いです。

またペットのポートフォリオを作成するサービスを始めました。動き回るワンちゃんや猫ちゃんの良い表情は、なかなか撮れないですからね。

現役に一言

入ってすぐの30歳ぐらいの時は、みんなと歳が離れているせいもあって、なかなかコミュニケーションが取れずに、面白くなく、休んだりしたこともありました。でも、当時松本哲哉OBが委員長の際に、委員会前に迎えに来てくれたのがきっかけで、段々と知り合いが増え、面白くなっていったのを覚えています。卒会した後に気がつくけれど、中央会は本当に自分の財産になる。ぜひ自分の業界では知り合えないたくさんの人と交流を持って、自分の財産をひとつでもふたつでも作って欲しい。

笑顔の展示会！

4月19日(日)、いかにも春とといった快晴の中、観音寺にあるトステムショールームに於いて、当会、谷口会員の会社、谷口建築の展示会が開催されました。玄関に入ると「いらっしゃいませ！」という元気のいい声と共に、谷口さんがいつもの笑顔で迎えてくれました。よく見てみると同じ笑顔がひとつ、ふたつ、みっつ・・・あれ？目の錯覚かな？すると谷口さんから、「兄です」そして「母です」。そっくりで驚きました。展示会は大盛況で、キッチン・トイレ・バスルームなど最新のシステムがリーズナブルなものから高価なものまで所狭しと展示してあり、思わず欲しくなるものばかりでした。

谷口さんはいつもの笑顔で親切丁寧に対応しておられ、少々高価なものでもゼロがひとつ取れそうに感じられました。来店している御婦人も「あら！これ買っちゃおうかしら」と、なりそうなお様子は、さすがに人生経験豊富な先輩でもあり、そして中央会屈指の“笑顔の伝道師”である谷口さんの真髄ここに見たりということに脱帽いたしました。入会年月に関係無く、先輩会員の姿には本当に見習うべき点が多々あり勉強になります。我々のような中小企業にとって、お客様との距離が近いこんなアットホームな雰囲気こそ大事な点だと痛感した一日でした。

当日は、イベントの一環として包丁を持参すると研いでもらえたのですが、切れ味が新品のように復活し、我が家の奥さんも「良く切れるー」と言って、まるで板前のようにハマチを捌いておりました。ありがとうございました。

(記事：須山)



鳥取県中小企業青年中央会視察研修事業 IN 愛媛

今年の県の視察研修事業は4月24・25日に愛媛県で行われ、東部8名・中部9名・西部17名の合計34名で行って参りました。

朝8:30米子市民体育館に集合し、まずは愛媛県の今治市まで。今治といえばタオルの町ですが今回は(株)日本食研本社の宮殿工場の視察でした。



(株)日本食研といえば「焼肉焼いても家焼くな」のキャッチコピーで有名な会社で、焼肉のタレだけで宮殿工場が建つのか?と不思議に思いながらの視察スタートでした。

まずは社員食堂で食事です。多くの女子社員さんに囲まれて、タレは使い放題の昼食(当たり前か?)。大沢社長ご本人が現れたので、早速名刺を渡し軽く挨拶を済ませて工場見学へ。写真にあるように、本当に立派な宮殿工場で総工費75億円、それをキャッシュで建設したというのですから驚きで、宮殿工場は入場料が必要ですが一般開放されているというのですからさらに驚きでした。

案内の女子社員さんに導かれながら、ヨーロッパの庭を想像させる中庭を通して工場内に進むと、迎えてくれたのはまさしくTVで見る宮殿の玄関のような入り口に、1つ1千万もするシャンデリアが3つも並ぶ工場入り口!

通路には6つで200万もするマイセンの人形が飾ってあったり、本でしか見たことの無い年代物のガラスの食器やグラスが展示してあり「本当に工場か?ここは」と感じながら製造ラインへ。外見や玄関とは裏腹に、そこは清潔な工場内でドライフロアー方式のロボットを多用した最新の工場設備でした。

工場を視察して焼肉のタレだけでなく、ハム・調味料・水など多品種が小ロットで生産されていました。「1人1人のお客様の味を作る」というコンセプトで30年前といえば少品種大ロットが主流の中今の時代を見据えた経営手段がこの会社を大きくしたことを再認識しました。

しかも小売りの焼肉のタレより業務用の売上構成比がほとんどだと聞いてこれまたビックリでした。

創業当時は唐揚げ粉から始めて、今ではスーパーの厨房や大型店の厨房などで使うミックス粉・調味料やタレをそのお客様独自のものを生産してお届けしているそうです。



本社以外に工場は千葉にもあり、国内事業所が141ヶ所・海外11ヶ所、それ以外にもホテルや不動産・商社・住宅会社など数社があり、それを全てまとめてKOグループというのですが、KOとは社長の大沢一彦のイニシャルを取ったそうです。

30数年1代でここまで出来るのか?と思ひ牛乳屋の俺でもがんばれば、この10%くらいにはなれるかな?ががんばろうと思わせてくれる工場視察でした。

宿泊先である、道後グランドホテルに到着後一風呂浴びて、懇親会。小椋県会長の挨拶から平井東部会長の乾杯で始まって歓談後はお楽しみのアトラクションです。司会は私手島の出番、焼酎一気飲みしていざ出陣、ゲームの内容は各地区5人出てもらい、答えが同じ答えの数分加算されるゲームで題して「鳥取県青年中央会の定説決めゲーム」。例えば、「AV女優といえばだれ?」とか「女性の下着の色といえば何色?」など・・・後はご想像にお任せいたします。



これがまた、大盛り上がりで司会していた私も本気で笑いこける答えが連発、でも不満が一つ、西部の時に出した問題で「牛乳のブランドといえばなに?」という問題で、これは私が司会しているのですから、当然満場一致で「明治」となるはずが、M会長の答えは「大正」って???(明治・大正ね・・・会長!レッドカード(爆笑))しかし参加した皆さんのおかげで大変盛り上がりアトラクションも無事終了しました。

2日目は観光組とゴルフ組に分かれて行動しました。観光組は、松山城・坂の上の雲ミュージアム・道後市内(昼食)・伊丹十三記念館と松山の王道観光を満喫。

ゴルフ組は、奥道後ゴルフカントリーという名門コースに行きました。

ここはあの青木プロも愛したコースで多くの花も生けてあり名門の名に恥じないコースでしたがあいにく大雨の中ラウンド・・・16名のコンペで2人のシングルさんを差し置いて優勝者は我西部の田中康裕会員おめでとうございます。

そして観光組と合流して一路鳥取県への帰路に着きました。事件と言え、Y副会長が携帯電話をど・こ・か・に?忘れたくらいで、その他何とか無事皆さんのおかげで終える事が出来ました。

県の事業はソフトボールと総会を残すのみです。最後まで気を抜かないで職務をまっとういたします。今回の視察研修事業に対して皆様のご協力に大変感謝いたします、ありがとうございました。(記事:県出向 手島武司)

これが私の 変革 revolutionize

変革=Change, Reformation, Revolution, Upheaval...。今までとは全く違うやり方、形態に変わる。この記事を書くにあたって、身の回りの小さな変革を探してみた。しかしまたこういう時に限って、これといって劇的な変化が見当たらない。いっそ煙草を辞めようかなどという無謀な企画を考えるものの、数秒で断念する。さて、どうしたものか...。考えあぐねていると、ふとあることに気づく。そういえば、今の自分の仕事や生活スタイルは、過去に比べて劇的に変化している。確かに変化しているにもかかわらず、しかし、思い起こせば、一体どこのタイミングから大きく変わったのかがいまいまい判らない。徐々に徐々に、ゆっくりと、変化しているからだ。もしや変革とは、ドラマのように一生に数度しか起こらないような珍しいもの

ではなく、まさしくこの瞬間、一秒ごとに、緩やかに起こっているものなのではないのだろうか。しかも、私の人生はそれらすべてが良い方向へと向かっている実感がある。私はなぜか、あらゆる場面において予期せぬラッキーに救われ、その結果、全ての結末がうまくいってしまうことが多いのだ。いや、多いというより、全てがそのように動いているようにも感じられる。案外チャンスは、チャンスっぽくない顔をして、そこらじゅうゴロゴロ落ちているらしい。チャンスに見えないチャンスを見出すことができるかどうか。これこそが日々の変革の礎なのではないだろうか。

(記事:濱澤)

わが家の宝

お誕生おめでとうございます

しらいし ふうか
白石 風花ちゃん

平成21年3月2日生まれ
米子市河崎
白石博昭さん・由美子さんの長女
[一言]
我が家に誕生した待望の姫。
毎日かわいい泣き声に癒されてます。
これから兄弟3人仲良く元気に大きくなってね！



たなか てつた
田中 哲太ちゃん

平成20年9月12日生まれ
米子市安倍
田中健雄さん・綾さんの長男
[一言]



平成20年9月12日 我が家に初めての子供を授かりまして、既に半年が経過しました。名前は、哲太(てつた)と名付けました。名前は雰囲気決めてしまった感が強く、名前の由来を聞かれても即答できるよう、後付だけ何か考えないといけな、と思っている今日この頃です。何をやるにも初めてで戸惑うことはありますが、嫁と周囲の方の尽力のお陰で、すくすくと育てております。

4月度委員会報告

政治行政委員会

平成21年4月8日(水)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/10名
議題/・役員報告の件
・地元農家の方を招いて、農家の現状について講演会

環境問題委員会

平成21年4月7日(火)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/10名
議題/・「水と森の学校」の件
・下敷き作成の件

Neo・ラヴィ委員会

平成21年4月9日(木)於:レストランぶどうの木 出席者/10名
議題/・会員拡大の件
・委員会まとめについて

ビジネス委員会

平成21年4月6日(月)於:レストランぶどうの木 出席者/10名
議題/・会員拡大の件
・安来YEGとの交流会の件

エリアデザイン委員会

平成21年4月8日(水)於:こうりん坊 出席者/7名
議題/・4月担当例会反省の件
・今後の活動計画の件

広報委員会

平成21年4月7日(火)於:米子食品会館 出席者/14名
議題/・ハンサム編集の件
・6月担当例会の件

総務委員会

平成21年4月8日(水)於:ピアホフ・ガンバリウス 出席者/15名
議題/・会員拡大の件
・4月レクリエーション例会の件

編集後記

鳥取県勢が夏の甲子園で校歌を歌うことは非常に難しい。わたしが出場した第77回全国高等学校野球選手権大会から昨夏の第90回大会にかけて、悲願が叶うこと一度。14年間でわずか一度である。どうすれば勝てるようになるのか!?そんなことをこの貴重な場で話すつもりは毛頭ない。

わたしにとって甲子園はまさに「夢舞台」であった。夢が実現したとき、人は何をすれば良いのか分からなくなる。それは、夢以上のものが存在しなかったからだ。そんなわたしに勝利というご褒美が降ってくる訳などなかった…。

「夢を語ろう!!」「夢を持ちなさい。」聞こえはもの凄く素敵だが、夢からは何も生まれないと思う。夢には具体性がなく、それ故実現するためのプロセスがはっきりしないのだ。数々の乗り越えなければならぬ山も、夢の前では無力で覆い隠してしまうことさえあるのが現実だ。

ここで断っておきたいのは、わたしは「夢を持つ」ことに否定するものではない。夢を持つことは個人の自由で、わたしがとやかく言うことではないのだから。

大変興味深い本を見つけた。WBCでも大活躍したあの国民的スターを取り上げたノンフィクション 吉井妙子著『夢を見ない男 松坂大輔』だ。内容説明にこう記されている。

「僕は人生で「夢」は見ない。あるのは常に「目標」で、それは絶対にクリアできるものだと思っている。」

確信を突いた言葉だと思う。

問題は、夢を持つことだけを持ってはやす社会の風潮。「夢」には常に言い訳が付きまとう。そして、その言い訳でさえも非難されることは少ない。なぜなら…、実現しなくても仕方ないもの、それが「夢」なんだと思う。

しかし、美化されがちな「夢」が「目標」へと変わったとき、やるべきこと・自分に足りないもの・課題が明確となり、進むべき道が見えてくる気がする。「夢」では道に迷ってしまうが、「目標」では迷うことなく、近道でも回り道でも出来るのだ!!

アメリカ発の金融危機、未曾有(みぞう)の大不況の中「夢見る青年 じゃいられない!!」のだ。
(記事:高塚)

新入会員

《コピーをして名簿にお貼りください》

にしむら よしあき A型
 株式会社 西村義史
 株式会社 西村義史 管理本部経理グループ係長
 食品卸業
 〒683-8506 米子市旗ヶ崎2147
 TEL 33-6165 FAX 34-9051
 (KT) 090-3372-6296
 (EM) y-nishimura@sanrei-foods.co.jp
 S46.6.25生

《コメント》この度、入会のご承認をいただき、大山でのレクリエーション例会においてパッチを授かりました株式会社西村義史と申します。中央会で活動させていただくとはとても大きなエネルギーが必要だと感じております。ただ使ったエネルギー以上に自分、会社そしてこの地域のためになるものだと思います。感謝の気持ちを大切に、中央会入会をきっかけに、いろいろな事に挑戦していきたく思います。皆様よろしくお願ひ申し上げます。

5月役員会報告

5月定例役員会が平成21年5月1日(金)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・4月例会反省の件
- ・5月例会開催の件
- ・その他

※なお、詳細につきましては各委員長までご参照ください。

5月例会案内

と き:平成21年5月18日(月) 18:30~21:00
*開会時間にご注意ください!

と ころ:ふれあいの里
内 容:パネルディスカッション
『トライアスロンへの関わり、過去そして未来』
担 当:役員